

まちづくり交付金 事後評価シート
稲むらの火整備地区

平成21年12月

和歌山県広川町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	和歌山県		市町村名	広川町		地区名	稲むらの火整備地区			面積	150ha		
交付期間	平成18年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	691	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(日東・八幡線改良)、公園(児童公園整備、東濱公園整備)、地域生活基盤施設(避難誘導灯設置、案内サイン整備)、高質空間形成施設(広西10号線改良、湯浅-広浜線改良)、既存建造物活用事業(濱口梧陵記念館整備)										
		提案事業	地域創造支援事業(濱口梧陵記念館整備、津波防災教育センター屋上サイン設置、広村堤防整備)、まちづくり活動推進事業(稲むらの火の館PR事業)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(緑地公園整備)		地域住民から安全に散歩等ができる公園の整備の要望があったため。			計画の目標である観光振興と地域の活性化に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。					
		提案事業	地域創造支援事業(観光案内所整備)		平成19年4月にオープンした濱口梧陵記念館の未館者より、トイレの設置と関連史跡の道案内の要望があったため。			計画の目標である観光振興と地域の活性化に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。					
交付期間の変更	当初	平成18年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
	変更	なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	災害時における避難時間	分	36	H17	34	H21	-	34	○	あり なし	日東・八幡線の拡幅及び避難誘導灯の設置の結果、避難時間の向上が図れた。	
	指標2	自主防災組織の数	団体	36	H17	40	H21	-	39	△	あり なし	● 町内39地区全てに1組織された。このうち大きい地区を2組織に分離し、目標達成を図る。	H22年4月
	指標3	人口	人	8,071	H17	8,200	H21	-	7,868	△	あり なし	● 民間企業の撤退等の要因により未達成となった。しかし、人口の減少率は改善。	H22年10月
	指標4	観光客数	人/年	133,000	H17	153,000	H21	-	147,530	△	あり なし	● 世界的不況や燃料高騰により目標未達成。しかし、従前値に比べ大きく改善した。	H23年7月
	指標5									あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度*1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	津波防災教育センターの町外来館者数	人	17,222	H19			-	17,395			「稲むらの火」「濱口梧陵」を中心に整備した結果、観光客数の増加が図れた。	平成22年4月
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	濱口梧陵の「稲むらの火」を中心に防災力の向上と観光振興を行ない、濱口梧陵記念館・周辺の道路整備・堤防整備等、集中的に整備をした結果、もともと観光客の招致が出来ていなかった状態から観光客を呼び込むことができた。この観光客は、以前と比べると純増となるので観光振興にはおおいに貢献している。また、観光資源として町外にアピールすると共に町民に対しても先人の功績や取り組みを再確認させることで防災意識を向上させることができた。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり体制の構築	・稲むらの火祭り ・語り部				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 両方共に課題となっている防災意識を後世に伝える事と地域振興におおいに貢献しているので町のバックアップを含め、継続できるよう努める。		

様式2-2 地区の概要

稲むらの火整備地区(和歌山県広川町) まちづくり交付金の成果概要				
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
メインテーマ 濱口梧陵を核として災害に強いまちづくりと地域振興 目標1: 濱口梧陵が残してくれた防災の遺産を後世に伝えるべく防災まちづくりの推進 目標2: 全国的に有名となった「稲むらの火」を活用した濱口梧陵関連施設の整備による観光振興と地域の活性化	災害時における避難時間	単位:分 36 H17	34 H21	34 H21
	自主防災組織の数	単位:団体 36 H17	40 H21	39 H21
	人口	単位:人 8,071 H17	8,200 H21	7,868 H21
	観光客数	単位:人/年 133,000 H17	153,000 H21	147,530 H21
		単位: H	H	H
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・老若男女が集える公園や、防災力の向上を図った道路整備を行った事から、地域での生活力を向上させる事が出来た。1地区1防災組織となったことから地域防災力の向上が図れた。 ・関連事業の「津波防災教育センター」と共に濱口梧陵関係の整備を重点的にを行い、もともと広川町に無かった観光資源を創造し観光客の招致に成功した。また、観光客が増加した事により町内外を問わず大勢の人に「濱口梧陵」「稲むらの火」を知ってもらう事ができた。 			
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織単位での被災時の講習・訓練を定期的に行う。 ・観光基盤が創造されたので、今後はPRを中心としたソフト事業を展開していく。また、観光を強化する事で「濱口梧陵」「稲むらの火」の知名度を向上させる。 ・語り部の強化を図るため、特に若年層の人材確保を図る。また、語り部の養成講座を開催が必要。 ・旅行会社等に対し、観光ルートとして積極的なPRを図る。 ・大型観光バスが中心地まで侵入出来るよう幅員の狭い道路の改良を検討する。また、濱口梧陵記念館前の駐車場が満車になった時を勘案し、付近の空き地や公民館駐車場を利用できるようにする。 			